2025年度の付帯意見への対応①

2026年度国立研究開発法人国立がん研究センター
中央病院臨床研究外部監査委員会(資料より抜粋)
2026年8月28日　開催

■ 医療・研究のグローバル展開、特にアジア諸国に対しては、着実に成果が出ており、高く評価する。今後も引き続きご尽力いただきたい。(2025年度付帯意見①)

- 2020年より開始されたアジア臨床試験ネットワーク構築事業（ATLASプロジェクト）では、開始から5年あまりで、5つのアジア共同研究に対して、アジア10か国、41施設から、2900人を超える患者登録がありました。
- 現在5つのアジア共同医師主導治験を準備中で、この中には海外の研究者が提案し、製薬企業から治験薬と研究資金を獲得した試験も含まれます。
- 新規の国際共同試験の立案を促進するため、アジアに多いがん種について7つの臓器別グループを設立するとともに、若手向けの2日間のワークショップでアジア共同試験のアイデアをブラッシュアップするなど、日本のみならずアジアの研究者からの研究提案を奨励し、持続的な発展を目指しています。

2025年度の付帯意見への対応②

2026年度国立研究開発法人国立がん研究センター
中央病院臨床研究外部監査委員会(資料より抜粋)
2026年8月28日　開催

■ 医療 DX は非常に重要な課題であり、これまでも積極的に取り組んでこられたことを評価する。課題も多く存在するが、今後は医療分野にとどまらず研究分野においても医療 DX を推進するとともに、成果と課題を国内に周知いただきたい。(2025年度 付帯意見②)

- 医療DXによる医療者の負担軽減・医療の質向上については、中央病院FIH実施病棟でバイタルサイン自動入力やスマートフォンによる情報共有などについて、2026年4月末から試行的導入が始まりました。医療者の負担軽減、医療・臨床試験の質向上について検討を進める予定です。
- 臨床試験・治験に関するDX推進の一環として、当院ではオンライン治験（DCT)を推進しており、これまで5つの医師主導治験、企業治験、特定臨床研究でDCTを実装してきました。2025年8月にはDCTに関するSOPやマニュアル等を一般公開し、無料でDCTコンサルテーションを受け付けるなど、日本全国にDCTが普及するような活動も行っています。
- また、生成AIを利活用した治験総括報告書の自動作成や、プロトコールの自動作成にも取り組んでいます

2025年度の付帯意見への対応③

■ 人材育成については、これまでも女性活躍・若手登用に関して指摘してきたところであるが、さらに、国際共同試験等でリードできる「Key Opinion Leader」を育成し、輩出してほしい。 (2025年度 付帯意見③)

● 国際共同試験をリードできる人材育成は非常に難しく、現在、がん治療開発領域においてこれに該当する日本の医師は少ないのが現状です。当院では2025年度より中央病院の10年後のあり方に関する検討会を開催し、Specialな機能を核とし、持続可能な世界最高水準のがん医療を提供しうる病院となるための様々な検討を進めています。人材育成に関しては次ページのような内容に取組み、Key Opinion Leaderの育成を進める予定です。